

【基盤研究(S)】

人文社会系(人文学)



研究課題名 日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充 —天皇家・公家文庫を中心に—

東京大学・史料編纂所・教授

たじま いさお
田島 公

研究分野：史学(日本史)

キーワード：日本古典学、日本目録学、禁裏・公家文庫、デジタル画像、新訂増補版日本古代人名辞典

【研究の背景・目的】

近年の世界的な古典学研究復興の中で、日本古典学は新出資料が少ない上に活字化された既存のテキストの信頼性が揺らぎ始めており、閉塞感が否めず、創造的な自己革新を遂げにくい状況下にあったが、そうした状況を改善するため、平成19～23年度学術創成研究費「目録学の構築と古典学の再生—天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明—」が採択された。前近代日本における古代・中世以来の伝統的知識(知識体系)は主に天皇家を中心とした公家社会に育まれた禁裏文庫・公家文庫やそれと深く関わる社寺文庫を中心に手書きの写本という形態で有機的に分類(類聚)され、世代を超えて保管されてきたという特徴があり、そうした知識体系は前近代の禁裏・公家文庫の蔵書目録と家分けに集積したデジタル画像の組合せにより復原が可能である。

本研究は、上記学術創成研究費による研究を継承し、日本古典学の基礎学問領域として創成した日本目録学の研究基盤を確立するため、禁裏・公家文庫の所蔵家分け目録の復原や集積した天皇家ゆかりの文庫や陽明文庫所蔵近衛家本など主要公家文庫収蔵史料のデジタル画像を公開し、『日本古代人名辞典』の増訂改訂など古典学研究支援ツールの拡充により、停滞気味の日本古典学を再生することを目的とする。

【研究の方法】

1. 集積した禁裏・公家文庫収蔵史料のデジタル画像約100万コマと作成済みの東山御文庫本・伏見宮家本のデジタル画像内容目録約20万件を、Hi-CAT Plus(東京大学史料編纂所所蔵目録データベース改良版)とTKビュー(デジタル史料画像検索・閲覧システム)により、東京大学史料編纂所閲覧室で公開する。宮内庁書陵部所蔵本等は、所蔵機関との密接な協議の上、セキュリティ対策を施し、インターネット公開の準備を行う。
2. 古典学研究支援ツールとして、大量に発見された木簡等出土文字資料記載の人名や九世紀末までの人名を増補した『日本古代人名辞典』新訂増補版や日本列島と中国大陸・朝鮮半島を往来した人や物・情報(典籍)等を網羅した『日本、中国・朝鮮対外交流史年表—600年～1200年—』の刊行を行う。
3. 禁裏・公家文庫の家分け目録の復原研究(壬生家本や九条家本等)や収蔵個別史料の目録学的研究成果を、『禁裏・公家文庫研究』5・6輯や『東京大学史料編纂所研究成果報告』など通じて公開する。
4. 「陽明文庫講座」「西尾市岩瀬文庫特別連続講座」

「古典を読む」など市民向け公開講座の開催や講座の内容を盛り込んだ一般向けの書籍の刊行を行う。

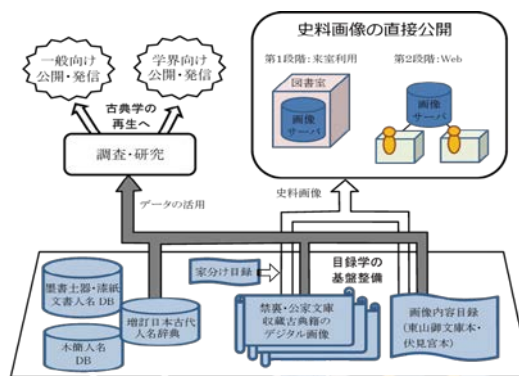


図1 研究計画の概念図

【期待される成果と意義】

1. 古典研究の中核となる史料群を含み、伝統的知識体系を継承する禁裏・公家文庫収蔵史料約100万件のデジタル画像の公開によって、古典研究の環境が一変し、写本を用いた研究が大きく進展する。
2. 従来閲覧が容易でなかった禁裏・公家文庫本の目録や史料画像のインターネット公開が可能となると、国内の研究のみならず、海外でも写本を用いた研究が可能となり、日本古典学の国際化を促進する。
3. 学界待望の古代人名データベースが完成する。
4. 市民向け公開講座の開催や講座内容の書籍化によって、古典への理解が一般市民の方にも浸透する。
5. 高精細画像で史料を後世に伝える事が実現する。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・田島公編『禁裏・公家文庫研究』1～4輯 思文閣出版 2003年・2006年・2009年・2012年

【研究期間と研究経費】

平成24年度—28年度
147,300千円

【ホームページ等】

<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/kodai/kinri-kuge-index.html> (禁裏・公家文庫研究の窓)
http://jinmei.nabunken.go.jp/mokkan_name/ (木簡人名データベース)